

## 中山道後期第9回区間記録

2014年5月13日～14日（1泊2日）

東赤坂駅→醒ヶ井駅（赤坂宿→垂井宿→関が原宿→今須宿→柏原宿→醒ヶ井宿）

世話人 高津 有二（昭40 法）

多田 明生（昭36 法）（記）

1-1：5月13日（火） 天気 快晴 歩行距離 15.0Km 参加者 41名

### 1-2：行動記録

東赤坂駅 9：45→赤坂港跡→10：20 赤坂宿矢橋本社・牡丹園 10：50→大塚古墳→相川橋→12：30「八千久別館」（昼食）13：15→垂井の泉→垂井一里塚→六部地蔵・桃配山→15：15 関が原歴史民俗資料館 16：45→関が原駅→17：34 大垣駅→18：00 大垣ロワジュールホテル（夕食会・宿泊）

### 1-3：区間概要・エピソード

- 前夜の雨がすっかり上がって爽やかな5月の風が吹く中、美濃路後半初日3宿15Kmを歩く。参加者41名（うち東海銀杏会より大坪氏1名が現地参加）。
- 赤坂宿では会員安藤さんの紹介をえて、地元有力企業矢橋グループ本社に立寄り、矢橋社長の案内でお茶屋屋敷・牡丹園を見学、残念ながら花は盛りを過ぎていたが、新緑が美しかった。
- 大塚古墳頂上から関が原方面・伊吹山・金生山、遠く金華山など美濃路全体を展望できた。
- 相川橋では川幅一杯の鯉のぼりがみられるはずだったが、すでに時期はずれになっていた。
- 昼食は垂井宿の「八千久別館」で地元食材の弁当。食後、垂井の泉を見学。
- 午後は田植えの終わった田舎道をひたすら歩いて関が原宿へ。関が原歴史民俗資料館・草野館長から関が原合戦のジオラマ説明をうけ周辺史跡を見学、記念撮影。
- その後関が原駅に戻りJRで大垣駅へ、大垣ロワジュールホテル着、夕食会（今後の諸計画など説明あり）、二次会はホテル近傍の居酒屋に設営、宿泊。

2-1：5月14日（水） 天気 晴 歩行距離 16Km 参加者 40名

### 2-2：行動記録

ロワジュールホテル 8：20→大垣駅→関が原駅 9：20→西首塚→9：40 不破関跡・資料館 10：30→常盤御前墓→今須宿→11：45 寝物語の里（近江国入り）→12：30 柏原宿歴史館（昼食・見学）13：30→14：55 醒ヶ井宿・居醒の清水（自由行動）→15：45JR 醒ヶ井駅（解散）

### 2-3：区間概要・エピソード

- この日も晴。伊吹山を眺めながら美濃路をつめて柏原宿よりいよいよ近江路に入る。
- 大垣駅から関が原に戻り、駅前広場で体操してスタート。まず不破の関見学、不破関資料館で前日お会いした草野館長（関が原と兼務）が待っていてくれて現場を指さしながら壬申の乱の解説を受ける。資料館ではビデオを見て前日同様一同大いに認識を新たにする。
- そのあと藤古川・黒血川の古戦場を通過、今須峠を越えて今須宿に入り宿のはずれの「寝物語の里」（隣接する民家の間を細い川が流れており、その溝の様な川が美濃と近江を分けている。寝ながらにして他国の話が聞ける状況だったよし）で少憩。芭蕉の句碑を見る。
- ここから滋賀県。やがて道は近江最初の宿場町柏原に入る。旧い家並みが比較的温存されておりかつては大きな宿場町であったが今は訪れる人も少ない静かな街並となっている。昔は伊吹山産のもぐさで有名な商売の町で、今一軒のみ残る「かめ屋」（店内に大きな福助が坐っている）でお灸を買い求める人も多かった。

- 柏原宿歴史館の座敷で地元ボランティアがサービスしてくれる弁当で昼食。食後ビデオ・資料館見学。土蔵資料館には広重の中山道の浮世絵がそろっており、過ぎ越してきた宿々に思いをはせる機会ともなった。
- 午後は柏原宿を出て山間の道を醒ヶ井に向う。やがて展望が開けて醒ヶ井の入り口・居醒の清水に至る。清涼な湧水にバイカモの白い花がちらほら見られた。ここで自由行動となり、それぞれ流れに沿ってそぞろ歩きしながら予定の時刻に JR 醒ヶ井駅に集合、解散となった。
- 駅のホームからは二日間にわたって我々の歩行を見守ってくれた伊吹山の大きな穏やかな山容が眺められた。

### 3. まとめ

- 今回は美濃路 4 宿・近江路 2 宿の 6 宿を歩く道のり。ここはいにしえから東山道・中山道・美濃街道・伊勢街道・北国街道が交差する東西交通の要衝であり、壬申の乱・関が原合戦など古代中世の天下分け目の戦さのあったところでもある。また文人墨客の往来も頻繁で名所旧跡は枚挙にいとまがない。2 日で通過するにはもったいないほどの史跡の宝庫だが、大所帯での歩きの旅の宿命で最大公約数的な立寄り先で我慢をしていただかざるをえなかった。
- 幸い前日までの雨が上って薫風爽やかな二日間を楽しむことができた。参加者各位の日頃の心がけのおかげと感謝。
- また、二日ともそれぞれ歩行距離は 15~16Km と適度でありかつ緩やかな登りが続くもののきびしい山道でもなく穏やかな街道歩きの行程であった。ただ過疎化現象の影はここでも随所にみられた。そのなかでもおりにふれ地元の人々とのふれ合いもあって、歩きの旅の面白さも感じられた。
- 今回は神奈川からは遠いものの新幹線・東海道線でアプローチできるので効率的であった。
- なお、今回の会費は一人当たり 16,000 円（うち、2 食 1 泊ホテル代 11,000 円、昼食代 2,200 円、入館料現地交通費 2800 円、その他共通費）。

以上